

発声発語障害リハビリテーション治療学特論

[講義] 第1・2学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 才川悦子 saikawa@hoku-iryo-u.ac.jp 柳田早織

【概要】

高度臨床専門職として必要とされる発声発語障害の評価、リハビリテーションを系統的に学習し、臨床に応用できる理論的基盤をつくる。

【学修目標】

一般目標：発声障害の基礎知識、評価方法、および治療について体系的に学び、質の高いリハビリテーションを展開するための理解を深めることを目標とする。

行動目標：

1. 発声発語機能検査を高精度の臨床的技術として活用する方法を説明できる。
2. 発声障害の病態理解に立脚して、適切なリハビリテーションの方策を立案できる。
3. 成人構音障害の病態理解に立脚して、適切なリハビリテーションの方策を立案できる。
4. 小児構音障害の病態理解に立脚して、適切なリハビリテーションの方策を立案できる。
5. チーム医療の中で協働しながらリハビリテーションを行う方法を説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|-------|---------------------|---|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 講義位置づけと進め方について説明し、2回目以降の作業内容を調整する。 | 才川悦子 柳田早織 |
| 2~4 | 発声発語障害の医学的側面 | 形態、運動の異常により発声発語の異常を来す疾患ならびに狭義の機能性発声障害について、講義形式で病態、診断ならびに投薬・手術的治療について学ぶ。 | 才川悦子 |
| 5・6 | 論文講読と小まとめ | 発声発語障害の医学的側面に関する論文を講読し、レポート作成ならびにディスカッションによるフィードバックを行う。 | 才川悦子 |
| 7~9 | 発声発語障害のリハビリテーション的側面 | 形態、運動の異常により発声発語の異常を来す疾患ならびに機能性発声障害について、講義形式で発声発語障害の評価方法ならびに音声治療について学ぶ。 | 柳田早織 |
| 10~12 | 論文講読と小まとめ | 発声発語障害のリハビリテーション的側面に関する論文を講読し、レポート作成ならびにディスカッションによるフィードバックを行う。 | 柳田早織 |
| 13~15 | まとめ | 発声発語障害のリハビリテーションを科学的に行うための理論的基盤をディスカッションにより確認する。 | 才川悦子 柳田早織 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート 100%（才川担当分、柳田担当分）

【教科書】

廣瀬肇 訳：新 ことばの科学入門 第二版、2011 医学書院

そのほか適宜講読すべき文献を指示する。

【学修の準備】

予習は、関連の文献等関係資料を各自調査し学習すること（80分）

復習は、プリント、講義メモを活用して学習を深めること（80分）

【実務経験】

才川悦子（医師）、柳田早織（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、発声発語障害の医学的側面およびリハビリテーション治療に関する基本的知識および実践について講義する。